

題字：住職

ほのぼの

第24号

平成22年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209
信行寺門信徒会

大法要のお稚児さんたち



大法要特集号

大法要をバネにして

住職

昨年十一月二十二日二十三日、五十年に一度という



大法要をお勤めさせて頂きました。盛会裏に大法要の円成をむかえることができ、住職としてなによりも有り難く嬉しいこととございます。

これは、ひとえに日頃よりお力添えを戴いております総代様、門信徒会役員の

方々や実行委員のみなさまをはじめとして、門信徒のみなさまがたのご支援ならびに神戸祭典様の特別なご協力のたまものと深く感謝しております。

お寺が復興して十年たちました。これを機に親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要を修行し、明るい二ユースを聞くことが少ない現在に、少しでも元氣を取り戻して欲しいと思います。いつもお参りくださる方はもちろんですが、これまでお寺にお参りすることのなかった方にも、是非お参りしてもらい仏さまのお心に触れてもらいたい。その思いでプログラムを考えました。

いつもお出でいただいている高田先生のご法話だけでなく、この度は特別にお願いして、「親鸞」を書かれた作家の五木寛之さんに示唆に富んだ感銘深い講演をいただきました。また、二胡の演奏で全国的に活躍していらっしゃる姜さんにも特別出演していただき、心の奥底に響く演奏を楽しむことができました。

稚児行列には、二十五名のお子さんが参加してくれました。この子供達も、お稚児さんに出たことが生涯の思い出になり、親も子も仏縁に恵まれた不思議を感じる時がくると思います。

この大法要がバネになりさらにお念仏の心が人々に伝わってゆくことを念願します。



第一日目

平成二十一年十一月二十一日(土)

五木寛之氏記念講演

『いま親鸞聖人に学ぶ』



現代はデフレレシジョン(恐慌)の時代と言われておりますが、これは経済が不況になり、物価が下落して、企業の倒産や失業者が増大することなのですが、これは経済が鬱の状態に陥っていることを意味します。

それと私は、人間の精神面のデフ

レシジョンが起こっていると考えるのです。自殺をする人が毎年三万人を超え、親が子を殺す、子が親を殺すなど、新聞やテレビで日常茶飯事のように報道されています。また高齢者の虐待が多いですね。虐待する例で一番多いのが息子だそうですが、二番目は娘、三番目に嫁だそうですが、このへんはちよつとおかしいと思えますがね。(笑声)

島根県で、女性のカバンを引つたくって逃げた男を、二人の高校生が追いかけて捕まえたところ、犯人は警官だつたという事件がありました。犯人を捕らえた十六歳の高校生の一人に、その時の感想を記者が尋ねておりましたが、「世も末だと思いましたが」と答えたということでした。家庭で、親同士が話し合っていたことを聞いていたんでしようね。世も末というのは、仏法では「末法」といいます。ちようど日本では、平安時代末期から鎌倉時代の頃でありまして、

法然上人や親鸞聖人が生きておられた時代のことをさします。その頃は地震や旱魃があり、竜巻が起こり、飢餓で餓死者が出て、農民の一揆が起こった時代でもあるわけです。親が子どもの肉を食うという悲惨な時代でした。まずしい農民の間では、間引きということが行われておりました。まずしくて食べてゆけないから子どもが間引かれていくのです。ところが北陸地方の門徒はそれをしなかつた。親鸞聖人の教えが行きとどいていた所でしたから、子どもを殺すようなことをしなかつた。かつてこの地方から多くの人々がブラジルに移りました。ブラジル政府も、門徒の人を喜んで受け入れたのですね。勤勉で、道徳心のある人と思われていたのですね。

親鸞聖人の説かれた念仏の心が人々の生活に生きていた証しです。



第二日目

平成二十一年十一月二十二日(日)

高田慈昭師記念法話

『親鸞聖人の教えを仰ぐ』



悲しきかなや道俗の
良時・吉日えらばしめ
天神・地祇をあがめつつ
卜占・祭祀つとめとす

正像末和讃の悲歎述懐和讃に、この
ような和讃があります。また大安吉
日、仏滅などを信じている人がいる

のです。門徒の中にもいます。何の
根拠もない、迷信に惑う人の多いこ
とか。因果の正しい道理を理解して
いないから、このようなものに迷う
のです。「天神地祇を拝む」どうして
このようなものを崇めるのでしょうか
ね。これらは阿弥陀仏に仕える身分
のものです。神が念仏者を敬うので
すよ。親鸞聖人は、このような道俗
のありかたを、悲しいかなと嘆かれ

た。悲しい哉、誠なる哉、慶ばしい
哉、これらは仏の目を通して自分を
見た場合の姿なのです。哲学者のデ
カルトが言いました「我思う故に我
あり」自分とは一体何なのかを考え
る時、自分の目では真実の自分が見
えてきません。私たちは仏法に照ら
されて知らされる世界をもっている
のです。「他力の教え」これは実に素
晴らしい教えです。

二胡奏者 医学博士

姜 曉 艶 さん
じやん しやうえん



私達の人生には、悲しいこと、
苦しいこと、いろいろあります。
またそれを乗り切つて慶びもあ
るのです。生きていくだけで幸
せ、親鸞さんから教えていただ
きました。素晴らしい教えです。
このような教えを聞いておられ
る皆様方の前で、私の演奏を聞
いていただくこと、本当に幸せ
と思います。

親鸞聖人七百五十回大遠忌
信行寺本堂復興十周年記念

(森本・記)

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要と、信行寺本堂復興十周年記念行事を、平成二十一年の十一月二十一日・二十二日に勤修すると聞いたのは、平成二十年の秋でした。そしてその年の報恩講には、法要告知の高札が掲げられて、いよいよ始まるのだなという意識が高まってきました。しかし反面において、住職が打ち出された「五木寛之さんの記念講演や、姜晄艶さんの演奏」それに「記念事業の数々」が実行できるのだろうか、という不安もあつたことは事実です。日が経つに従って、追われるような気持ちで落ち着かなくなり、記念行事のことで頭がいっぱいでした。世話人の方もそれぞれ手分けして、何

回も会合を開き、当日の手順を確かめあつたものです。しかし、案ずるよりも産むが易しで、心配したのが不思議なほどスムーズに進行しました。お世話下さつた皆さんの結集の結果が実を結んだのでしよう。

五木さんの招待には、随分と気を使ったものでした。講演に当たり、著作権や肖像権の問題も絡んで、写真撮影や録音・メモも駄目という制約を要請されました。一時間二十分の講演でしたが、理路整然と語られる話術の巧みさには頭が下がります。また五木さんの浄土真宗に対する造詣の深さも感じられて、近親感の持てる内容でした。

二日目の稚児行列も大変でした。子どもが自分勝手に動き回り、窮屈な着物を着せられてむずかる子、なだめたり、すかしたり、親御さんも随分疲れたことでしょう。板宿の商店街を練り歩き、お寺で記念撮影の後解散となつて、ほつとすること。

午後から姜さんの二胡の演奏。日本の歌曲の演奏や、中国の歌謡など、哀切な音にしばしば懐旧の思いが重なつて楽しいひと時でした。才色兼備の姜さん。巧みに日本語を操りながら、ムードを高めていくポードピリアンぶりに陶然としました。医学博士の称号を持ち、研究の傍ら日中友好に尽力されている、そのバイタリティには脱帽します。

祝賀会は盛会でした。寺族の一体感には圧倒されました。「八百回大遠忌は、僕が勤めます」空城君のことに、思わず涙が出ました。



初法座

「報恩感謝」

副住職

お正月には、初詣の人がたくさん神社に押しかけて、日本人の約八十%の人が何処かの神社にお参りすると言われています。ところで、なぜこのようにたくさんの方が神社にお参りするのでしょうか。神様に何を願っているのでしょうか。家内安全とか、病気が治りますようにとか、受験に受かりますようにとか。このように自分自身の願望をなにか人間の力を越えた力に頼っていいこうとするものがほとんどでしょう。では、今日ここにお参りのご門徒の皆様はどういう心持ちでお参りされましたか？

「報恩感謝」!! そうですね。こちらから阿弥陀様に向かって何かお願いするのではなく、こちらからお願するよりも先に、私たちが常に大慈悲のところで支え続けてくださっている阿弥陀如来という仏様がいらっしやる。そのことに気づかされる時、おのずと感謝の念仏がこぼれ手が合わされる。しかし、なかなか出来そうで出来ないことですね。

感謝といえ、お正月にはごちそうを頂いて普段食べられないものが食べられたりするのですが、最近はずいぶん食生活が贅沢になり正月のごちそうもそう珍しく感じられなくなつたようです。食べられるのが当たり前という感覚になつてしまうと、感謝の気持ちもなかなか生まれませんね。

私は以前インドやネパールなどの国を廻ってきましたが、病気になるって現地の食べ物が食べられず、夢にまで日本のご飯が出てきたことがあります。帰国して、一年半ぶりに食べたお米の味はわすれることができません。日本に居て、毎日何の気もなしに頂いているお米ですが、日本のお米がこんなにも美味しいということが、海外に出て初めて分かりました。日本にずっといたら普通に感じていたことも、すこし日本から離れてみると、当たり前でないということが分つてきます。このころのあり方次第で、ものごとは違うように見えるのですね。

仏縁をいただくことで、自分が当たり前だと思つていたことが、実はそうではないと分らせていただく。仏さまの言葉を通して、違う角度からものごとを見させていただくというのも大切だと思います。



兄弟揃って入選!!

一月十五日から、神戸そごう店で開催された「神戸市立小中学校書初め展」に空城君が四年連続入選し、銀賞に輝きました。

光輪さんも、よく頑張つて、初入選しました。兄弟揃つ

ての入選は珍しく、二人とも平素からの努力が認められたものだと思います。

また、総代の逢坂さんの孫(実松 彩夏)さんも入選され、来場の皆さんから賞賛の声があがっておりました。おめでとございます。

来年も、さらに研さんし、飛躍されることを願っています。

(月田 記)



実松 彩夏さん



米田 空城君



米田 光輪さん



記念行事写真集

平成21年11月21日・22日



信行寺の家族



法要当日 お寺の正面



喜びの住職 挨拶



受付の皆さま



総代の皆さま



功労者の皆さまに 感謝状